

みんなそっくり？ 漁港のカモメたち

一見よく似ているため鳥好きの間でも敬遠されがちなカモメたち。しかし成鳥にしぼって観察すると、それぞれの特徴がはっきり見えてきます。カモメの聖地と呼ばれる銚子漁港をはじめ、県内で見られるカモメ達を見分けてみましょう。

こちらの写真の他にズグロカモメ（干潟）、アイスランドカモメ・ホイグリンカモメ・カナダカモメ（主に銚子漁港）が多く観察されています。写真は小さいユリカモメから大きいワシカモメまで、大きさ順に並んでいます（撮影：a0512）。



ユリカモメ

内陸でも見られる身近なカモメ。真っ赤な脚とクチバシが良く目立つ。
背中の色：水色がかった薄い灰色。



ミツユビカモメ

外洋に生息するカモメ。黒いヘッドフォン模様と、レモン色のクチバシが特徴。
背中の色：薄い灰色。



カモメ

名前は普通だが関東では少ない。レモン色のクチバシと脚が特徴。
背中の色：薄い灰色。



ウミネコ

河川に沿って内陸まで入り、関東でも繁殖している。黄色い脚と口紅が目立つ。
背中の色：かなり濃い灰色。



オビハシカモメ

現在国内の記録はこの個体のみ。1月下旬に銚子漁港で観察されている。
クチバシの帯が特徴。



セグロカモメ

内陸でも見られるが漁港に多い。カモメ観察の基準種だが類似種が多い。
背中の色：灰色～濃く見える個体もいる。



オオセグロカモメ

夏でも見られる大きなカモメは本種。濃いピンク色の脚が目立ち、コワモデ。
背中の色：黒に近い灰色。



シロカモメ

北のカモメで、関東では少ない。風切り羽が白い大型カモメは本種のみ。
背中の色：かなり薄く、水色がかかる。



ワシカモメ

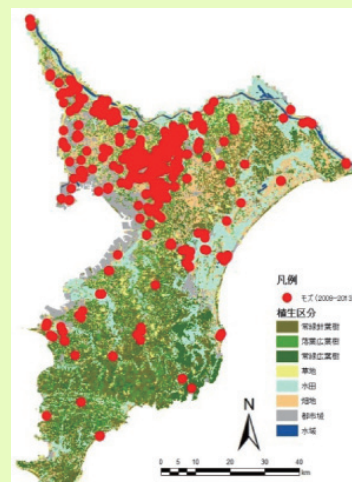
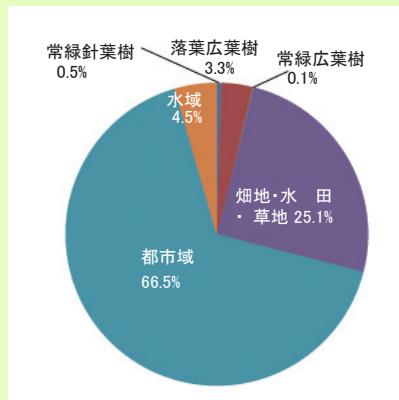
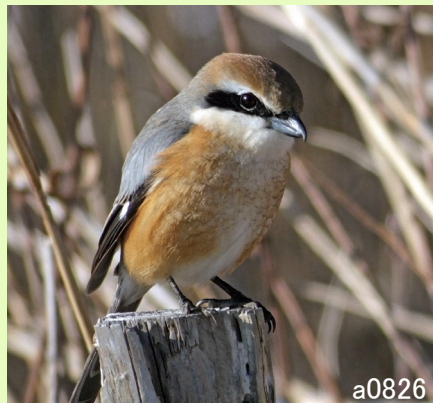
北のカモメで、関東では少ない。クチバシが大きく、目は小さくアンバランス。
背中の色：薄い灰色で風切り羽と同色。

第 17 回自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC17※）で報告しました

※ 自然環境や野生動植物保全等についての情報交換および科学的情報に基づく自然保護施策推進のため環境省が平成 10 年に立ち上げ、国や地方自治体の調査研究機関が所属する会議

平成 26 年 10 月 23 ～ 24 日に香川県高松市で開催された第 17 回自然系調査研究機関連絡会議で、「県民参加型生物モニタリング調査『生命のにぎわい調査団』5 年間の活動の成果」と題して、調査団の活動と調査報告の解析結果について報告しました。モズの例をご覧ください。

生き物調査報告 解析結果の一例：モズ発見地点周辺（半径 10m）の土地利用



生き物調査の総報告数は平成 26 年 12 月末で 43,000 件を超えました。皆様のご協力に深く感謝します。ただ残念なことに調査対象種 57 種類の報告がかなり減ってきています。ぜひ対象種の報告をお願いします。

平成 26 年度 第 2 回現地研修会 in 泉自然公園

11 月 24 日（月祝）、泉自然公園（千葉市若葉区）で 今年度 2 回目の現地研修会を行いました。59 名と大勢のご参加ありがとうございました。鮮やかな紅葉の中、小さな団員たちの活躍でこの時期には、かなり多くの昆虫を観察することができました。また、泉自然公園名物のオシドリとカワセミは、ほぼ全員、ご覧になれたと思います。開会直前のオオタカ出現で、小さな鳥たちが逃げてしまい、鳥の数という点では少しもの足りなく感じた方がいらしたかもしれませんが、ケンポナシの甘い枝先を味わい、樹上にまだ残っていたニイニイゼミの抜け殻をみつけ、池では在来種のスジエビ、クロダハゼ、モツゴ、外来種のアメリカザリガニ、ブルーギル、カダヤシなどをワナと網で採集して、さまざまな生き物をじっくり観察しました。



紅葉の中を歩く参加者



職員による魚類の解説



大人気のカワセミ

生命のにぎわい調査フォーラム & 写真コンテスト 開催のお知らせ

日時 平成 27 年 3 月 7 日（土） 午後 1:00 ～ 4:00 会場 千葉県立中央博物館 講堂

観察事例紹介と写真コンテストの応募をお待ちしています。締切：事例紹介 2/5（木）、写真コンテスト 2/23（月） 必着

＜これからの季節に観察できる生きもの＞

○調査対象種：ウメ（開花）、アカガエル類（卵塊）、アズマヒキガエル（卵塊） など

○調査対象種以外（種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします）

* 猛禽類、カモ類、小鳥などの冬鳥、越冬している昆虫など

* 希少生物（生息・生育数が減少している生物）や外来生物（特定外来生物・要注意外来生物）の報告も受けつけています。